

# 子宮頸がんワクチン（HPV ワクチン）と接種後の症状との 因果関係を示すエビデンスはない

—池田班研究の調査結果に関する厚生労働省の見解—

平成 28 年 12 月 8 日

公益社団法人日本産婦人科医会

会 長 木下 勝之

がん部会担当常務理事 鈴木 光明

平成 28 年 11 月 24 日、厚生労働省より、信州大学 医学部 池田修一教授の厚生労働科学研究「子宮頸がんワクチン接種後の神経障害に関する治療法の確立と情報提供についての研究（代表：池田修一教授）」の発表内容<sup>1)</sup>についての見解<sup>2)</sup>が発表されました。

それによると、『池田氏の不適切な発表により、国民に対して誤解を招く事態となったことについての池田氏の社会的責任は大きく、大変遺憾に思っている。また、この度の池田班の研究結果では、HPV ワクチン接種後に生じた症状が HPV ワクチンによって生じたかどうかについては何も証明されていない』という内容でした。

この厚生労働省の見解のように、子宮頸がんワクチン（HPV ワクチン）接種後の多様な症状とワクチン接種の関係を科学的に証明するエビデンスは確立されておりません。

本ワクチン接種後の CRPS（複合性局所疼痛症候群）を含む広範な慢性の疼痛や運動障害等の多様な症状に関しては、厚生労働省の副反応検討部会において議論が重ねられました。その結論は、このような多様な症状と本ワクチンとは明らかな因果関係は認められず、「接種から一定期間以内に発症した多様な症状は接種後の局所疼痛が惹起した機能性身体症状とするのが適切」というものです<sup>3)</sup>。

今後も、公益社団法人日本産婦人科医会では、厚生労働省が、HPV ワクチンの積極的な接種勧奨が早期に再開されることを、強く要望し続けてまいりたいと思います。

## 《参考資料》

- 1) 池田修一 子宮頸がんワクチン接種後の神経障害に関する治療法の確立と情報提供についての研究/ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状に関する厚生労働科学研究事業成果発表会 平成 28 年 3 月 16 日  
(<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10901000-Kenkoukyoku-Soumuka/0000116634.pdf>)
- 2) 平成 28 年 3 月 16 日の成果発表会における池田修一氏の発表内容に関する厚生労働省の見解について/厚生労働省 平成 28 年 11 月 24 日  
(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou28/tp161124.html>)
- 3) 第 15 回副反応検討部会（平成 27 年 9 月 17 日開催）における HPV ワクチンに関する議論の概要/ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に症状が生じた方に対する相談窓口設置に係る説明会 平成 27 年 11 月 2 日 参考資料 2  
(<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10901000-Kenkoukyoku-Soumuka/0000103094.pdf>)